

吉田絃二郎

よしだ げんじろう



人と自然を愛し、永遠に生きる人間の姿を
求め続けた自然詩人、英文学者

吉田絃二郎略年譜

- 1886年 明治19年 0歳 11月24日佐賀県神埼町(旧神埼郡西郷村)に生まれる。
本名は源次郎。父は、鍋島藩士吉田栄作。
- 1890年 明治23年 4歳 佐世保市上町に転居。
- 1891年 明治24年 5歳 佐世保市八幡町八幡小学校に入学。
- 1899年 明治32年 13歳 長崎のミッションスクール東山学院に編入学。
- 1900年 明治33年 14歳 佐賀工業学校金工科(現在の機械科)に入学。
- 1903年 明治36年 17歳 佐賀工業学校を首席卒業。佐世保海軍工廠に働く。
- 1905年 明治38年 19歳 4月 早稲田大学第三高等预科に入学。
- 1906年 明治39年 20歳 9月 早稲田大学文学科に入学。
12月 一年志願兵として対馬要塞砲兵隊に入る。
- 1908年 明治41年 22歳 9月 見習士官として対馬の重砲兵大隊に入る。
- 1909年 明治42年 23歳 1月 早稲田大学英文科本科に入学。
- 1910年 明治43年 24歳 秋 ペンネームは、坪内逍遙の命名による。
- 1911年 明治44年 25歳 7月 早稲田大学英文科を卒業。
- 1912年 大正元年 26歳 秋 前田明枝と結婚。
- 1914年 大正3年 28歳 3月『早稲田文学』に処女作、小説『磯ごよみ』を発表。
- 1915年 大正4年 29歳 7月 早稲田大学講師となり、英文学と英語を担当。
- 1917年 大正6年 31歳 10月『早稲田文学』に出世作、小説『島の秋』を発表。
- 1921年 大正10年 35歳 7月 感想集『小鳥の来る日』を刊行。
ベストセラーとなる。
- 1924年 大正13年 38歳 12月 早稲田大学文学部教授となる。
- 1931年 昭和6年 45歳 『吉田絃二郎全集』(2.5.7.8.11.13巻)を刊行。
- 1932年 昭和7年 46歳 『吉田絃二郎全集』(4.9.10.15.16巻)を刊行。
『吉田絃二郎童話全集』(1.2.3巻)を刊行。
- 1933年 昭和8年 47歳 『吉田絃二郎童話全集』(4.5巻)を刊行。
- 1934年 昭和9年 48歳 3月 早稲田大学教授を退官。作家活動に専念する。
『吉田絃二郎全集』(1.6.14.17.18巻)を刊行。
- 1935年 昭和10年 49歳 1月～2月『二条城の清正』を、歌舞伎座で中村吉右衛門が上演。
『吉田絃二郎全集』(3.12巻)を刊行。
- 1937年 昭和12年 51歳 7月 妻明枝死去。
10月『吉田絃二郎選集』全8巻を刊行。
- 1939年 昭和14年 53歳 『吉田絃二郎感想選集』全7巻を刊行。
- 1940年 昭和15年 54歳 『人生遍路』『吉田絃二郎感想選集』(8～10巻)を刊行。
- 1941年 昭和16年 55歳 2月 日活映画の『江戸最後の日』が文部大臣賞受賞。
- 1951年 昭和26年 65歳 11月『吉田絃二郎作品集』(1.3.4巻)を刊行。
- 1956年 昭和31年 70歳 少年少女小説『山はるかに』の最終編が絶筆となる。
4月21日 永眠。



- ① 莞牟田生家跡 ④ 吉田絃二郎文学碑 ⑦ 仁比山峰の原墓地
- ② チャップン池 ⑤ 仁比山酒造所跡
- ③ 唐香原旧宅跡 ⑥ 永代供養碑(地藏院)

交通アクセス

■博多駅	JR 長崎本線 約50分	神埼駅
■佐賀駅	車 約25分	神崎市
■福岡空港	高速バス 約40分	高速神埼
■佐賀空港	タクシー 約30分	神崎市

吉田絃二郎顕彰会

〒842-0007 佐賀県神崎市神埼町鶴 3388 番地5
神崎市中央公民館
TEL0952-53-2325